

平成 30 年度 研究主題

互いのよさを認め合う子の育成

～特別活動・特別の教科 道徳を実践の柱としての取組～



はじめに

平成 30・31 年度東京都教育委員会人権尊重教育推進校としての指定をいただき、研究主題を「互いのよさを認め合う子の育成」と定め、全教育活動を通して研究・実践を進めているところです。今年度は、特別活動と特別の教科 道徳を中心に人権教育の在り方を模索し、児童の人権意識や自尊心を高めるための取組を行ってまいりました。

本校は、人権尊重教育推進校として 1 年目でまだまだ研究・実践の途上であります。今後も今年度の実践・研究の成果を検証し、深め広めていきたいと考えております。

大賀郷小学校の子供はもちろんのこと、家庭・地域や島全体の人権意識の高揚につなげていくことができればと考えております。今後も研究を深め、研究の成果を広めることをお約束し、御指導を賜りました皆様への感謝の気持ちとさせていただきます。

東京都八丈島八丈町立大賀郷小学校 校長 大野 寿久



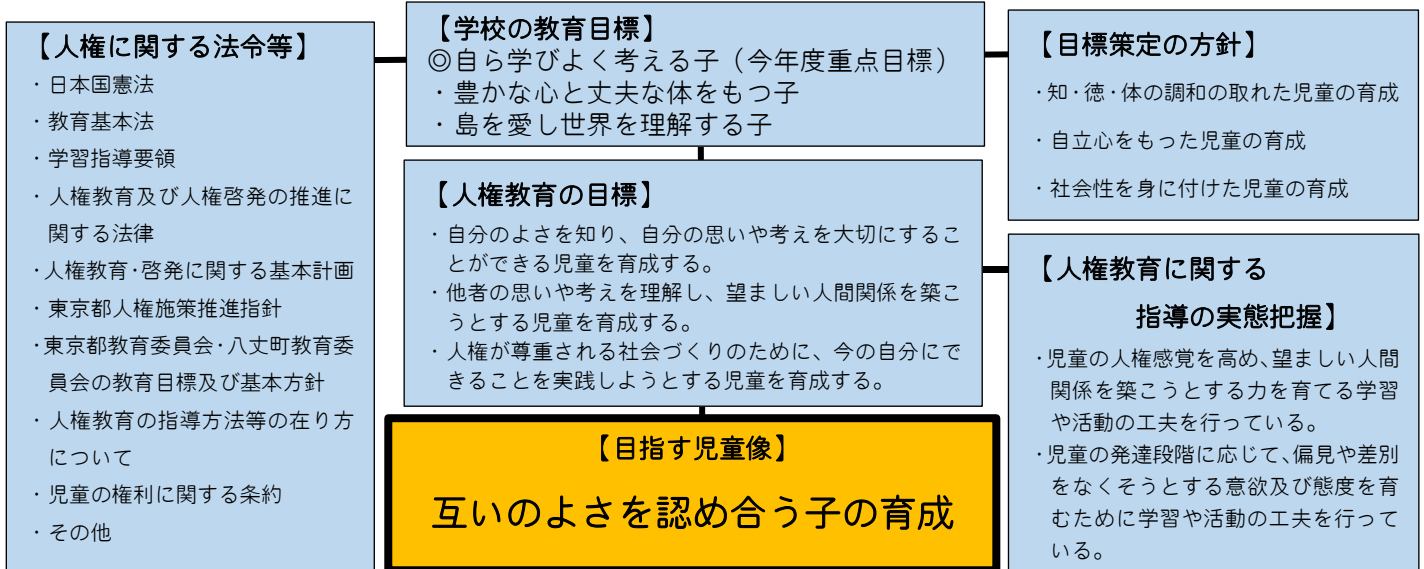
東京都八丈島八丈町立大賀郷小学校

〒100-1401 東京都八丈島八丈町大賀郷15

TEL 04996-2-0033 ファクシミリ 04996-2-5357



<人権教育全体計画>



低学年の目指す児童像	中学年の目指す児童像	高学年の目指す児童像
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思いを伝える子 ・ 相手の思いに気付く子 ・ 仲良く助け合う子 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の思いを受け止め、自分の思いを伝える子 ・ 互いを理解し助け合う子 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を尊重し、自分の思いや考えを伝える子 ・ よりよい人間関係を築く子

【人権教育を通じて育てたい資質・能力】		
知識的側面	価値的・態度的側面	技能的側面
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の人権を尊重し、人権課題を解決するために必要な概念に関する知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション能力

【普遍的な視点からの取組】	【個別的な視点からの取組】
人権尊重の理念についての指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己理解を深め、自尊感情を高めるための学習 ・ 他者理解を深め、認め合うための学習 ・ 他者との関わり合いを通して思いやりをもつための学習 	人権課題に関わる差別意識の解消を目指した指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特色、児童の発達段階に応じて重点を置く 人権課題：「子供」、「高齢者」、「障害者」、「外国人」

【学年・学級経営】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己肯定感をもち、互いに協力し合う集団づくり ・ 児童相互、児童と教師の好ましい人間関係の構築 ・ 規範意識の育成

【日常的な指導】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな人間関係を築くための「縦割り班活動」、「地域行事への参加」、「あいさつ運動」 ・ 豊かな情操を育む「読書活動」、「うたごえ集会」 ・ 自主性・協調性を育てる「児童会活動」 	【教科等の指導】 <ul style="list-style-type: none"> 各教科・総合的な学習の時間 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己を向上させるための基礎学力の定着を図る。 ・ 互いの思いや考えを伝え合うための思考力・判断力・表現力等を育てる。 特別の教科 道徳 <ul style="list-style-type: none"> ・ 他者の気持ちや立場を思いやる心、自他の生命を尊重する心、公正・公平な態度を育てる。 特別活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 協力して問題を解決したり、互いに認め合う人間関係を築いたりしようとする自主的・実践的な態度を育てる。
--	--

【人権教育の年間指導計画作成のための方針】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権課題について、普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組の系統化を図り、指導計画に位置付ける。 ・ 思いやりの心と望ましい人間関係を育てるために、交流活動や体験的な学習を意図的・計画的に取り入れる。 ・ 特別活動の取組を、自他を大切に実践の場とする。

【教職員の研修】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育プログラムを活用した研修 ・ 人権教育に関する研修会、研究発表会への参加 	【校種間の連携】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中連携教育協議会の開催 ・ 小中学校出前授業、交流授業の実施 ・ 保育園・小学校連絡協議会の開催 	【家庭・地域との連携】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者会、個人面談、学校公開、道徳授業地区公開講座、セーフティ教室等の開催 ・ 学校・学年便り、ホームページ等による情報発信
---	---	--

<平成30年度 各学年の実践>

個別的な視点からの取組

第4学年 総合的な学習の時間

「心のバリアフリーⅠ」(人権課題：障害者)

アイマスク体験や、地域の視覚障害者の話を聞く学習をとおして、視覚障害について理解し、相手の立場に立って考えたり、接したりすることができるようになりました。

【人権教育の視点】

障害者に対する偏見や差別の背景には、障害への理解不足があることに気付かせ、互いの人権を尊重しながら共に生きていこうとする態度を育む。



第5学年 総合的な学習の時間

「こんにちはおじいさん、おばあさん」(人権課題：高齢者)

高齢者疑似体験をしたり、地域の敬老会の方を招いて交流スポーツ大会をしたりすることで、高齢者への理解を深めました。

【人権教育の視点】

身近にいる高齢者に対する偏見を改め、公正・公平な社会の実現に向け努力しようとする心情や態度を育てる。



その他の取組

図書室の人権コーナー

人権に関わる本のコーナー



掲示板の人権コーナー

人権作文の発表会



全校朝会の講話など

人権課題(じんけんかだい)

高齢者

(こう れい しゃ)



人権課題(じんけんかだい)

障害者

(しょう がい しゃ)



普遍的な視点からの取組

第6学年 学級活動(1) 「クラスの名前を考えよう」

みんなの意見を大切にしながら、クラスの名前を考え話し合うことができました。

【人権教育の視点】

集団生活の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする力を養う。



第4学年 特別の教科 道徳 「世界の小学生」D 国際理解・国際親善 (人権課題:「外国人」に関わる学習)

世界と日本の小学校の学校生活の様子を比べながら、他国の文化への関心を高めました。

【人権教育の視点】

世界の国々の文化等について理解を深め、異文化を尊重しようとする態度を養う。



第2学年 学級活動(2)「すてきな言葉」

温かい言葉のよさを実感し、実践に生かせるよう、自分の課題に合った「努力すべきこと」を決めました。

【人権教育の視点】

視点① 一人一人の存在や思いを大切にする態度を養う。

視点② 友達に対して気持ちのよい言葉を掛けようとしていたり、思いやりがある言葉を進んで使おうとしていたりするスキルを身に付けることを通して、望ましい人間関係を形成するための技能を養う。



第1学年 特別の教科 道徳 「みんなだれかに」B 感謝

家族など日頃お世話になっている人々に感謝する気持ちを考え言葉に表しました。



【人権教育の視点】

生きていく中で、自分たちを支えてくれたり助けてくれたりしている人やものに気づき、感謝の気持ちを伝えようとする態度を育てる。

<平成30年度 児童会の実践>

普遍的な視点からの取組

第5、6学年 児童会活動（委員会活動）

5つの委員会で、大小の今年のスローガン「何でもチャレンジ大小の子」の下、5、6年生を中心に学校の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践しました。

【人権教育の視点】

学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組む態度を育てる。

<体育委員会>

全校で楽しめる運動遊びを考え、休み時間に実践しました。



<保健・給食委員会>

みんなが安全に過ごせるよう「保健新聞」を作成しました。



<代表委員会>

「何でもチャレンジ大小の子プロジェクト」を企画し、あいさつ運動や募金活動などを行いました。



<整備・図書委員会>

過ごしやすい学校や図書室にするために整理や整備を行いました。



<広報・放送委員会>

全校児童が楽しめるような放送内容を考え、お昼の放送を行いました。



<平成 30 年度 研究経過（校内研究）>

日にち	内容	授業者	教科領域	講師
4月17日(火)	研究授業	6年 羽田悠介	特別活動	國學院大學人間開発学部教授 杉田 洋先生
5月16日(水)	研究授業	4年 坂井ゆりか	総合的な学習の時間	東京都教育庁指導部指導企画課 統括指導主事 志村 安先生 指導主事 辻 慎二先生
5月29日(火)	研究分科会			
6月1日(金)	研究授業	4年 坂井ゆりか	特別の教科 道徳	帝京大学教職大学院教授 赤堀 博行先生
6月21日(木)	島嶼研究会	委員会	特別活動	東京都教職員研修センター研修部教育開発課 指導主事 高橋 龍先生
7月13日(金)	研究授業	1年 佐々木裕子	特別の教科 道徳	帝京大学教職大学院教授 赤堀 博行先生
7月17日(火)	研究分科会			
9月19日(火)	研究分科会			
9月25日(火)	研究授業	2年 照井由夏	特別活動	國學院大學人間開発学部教授 杉田 洋先生
10月16日(火)	研究分科会			
11月7日(水)	研究授業	保健給食・広報放送委員会	特別活動	東京都教育庁指導部指導企画課 指導主事 河野 敏弘先生
11月13日(火)	研究分科会			
11月16日(金)	大中交流会	体育・図書整備・ 代表委員会	特別活動	—
12月10日(月)	研究授業	5年 島田聡介	特別活動	國學院大學人間開発学部教授 杉田 洋先生
12月18日(火)	研究分科会			
1月22日(火)	校内分科会			
2月6日(水)	校内研究	次年度に向けて		
2月7日(木)	小中交流会	各委員会	特別活動	—

<成果と課題>

- ◎交流活動や体験的な学習を計画的に取り入れたことで、児童の人権意識が高まり、思いやりの心が育った。
◎自分の意見を伝え、友達の意見を大切にしながら合意形成する力が付き、望ましい人間関係を育成することができた。
▼個別的な視点からの取組については、地域の特色や児童の実態を見直し、本校に合った計画を再検討し、実施していく必要がある。

<御指導いただいた先生方>

國學院大學人間開発学部 教授 杉田 洋先生 帝京大学教職大学院 教授 赤堀 博行先生
東京都教職員研修センター研修部 教育開発課 指導主事 高橋 龍先生
東京都教育庁指導部指導企画課 統括指導主事 志村 安先生、指導主事 辻 慎二先生
指導主事 河野 敏弘先生
東京都教育庁八丈出張所 指導主事 高瀬 隆太郎先生

<研究に携わった教員>

校長 大野 寿久	副校長 岡田 伸一	主幹 伊藤 優	主幹養護 加藤 茂美
1年 佐々木 裕子	2年 照井 由夏	3年 安藤 衛	4年 坂井 ゆりか
5年 島田 聡介	6年 羽田 悠介	算数 井上 裕幸	音楽 佐藤 玲子
理科・図工 永井 功	家庭科・図工 梅田 みどり	巡回指導教員	町井 淳子
栄養士 川合 康	事務 田中 一夫	特別支援教室専門員	佐藤 里奈